

**【優秀賞】**

先生のための金融教育（小学校編／中高編）

愛知教育大学教育学部

鵜飼 遙佳

前田 宗誉

村井 望

### (提言の要約)

金融広報中央委員会を筆頭に各種機関、企業は親しみやすいWebサイトの設置や教材開発、教員向けセミナーの開催など、金融教育を推進するために様々な取り組みを行ってきた。しかしそれらは一部では成果を見せ始めているものの、未だ「学校でお金の話や利益追求を教えるべきでない」といった経済に対する否定的な考え方が根強く、金融教育の浸透が遅れている。

教育学部で学ぶ私達は、未来の教育を担う教育学部生の経済に関する意識に関心を抱き、数年後には教育現場で活躍するはずの学生たちの意識を知ること、未来の金融教育の姿を探ることができるのではないかと考えた。実施したアンケートによると、多くの学生は経済への興味を持っているが、知識が不足していると感じており、将来自分が経済学を含む公民科を教えることに不安を感じている。また経済学の講義が「面白くなかった」という理由に「(教科書通りの)理論ばかりである」という理由を挙げる学生が多い一方で、学生の多くは自らに必要な経済的知識を「日常の経済ニュースを理解できる能力」と答えた。またどのような授業であれば受けたいかという記述式質問においては「身近なテーマ」「子どもに教える力が身につく」などの意見が見られた。これらのことから大学の経済学講義が彼らのニーズと乖離していることがわかった。

そこで私達は教育学部生向けの新たな経済学の授業として「先生のための金融教育」を提案する。小学校と中学校・高校での教育体制の違いから、提案する授業は「小学校編」と「中学校・高校編」に分けた。それぞれに必要な知識の程度を考慮し、より身近で実践的であることに重きを置いた。

私達は、自身を含めた未来の学校教育を担う学生たちが金融教育によりいっそう興味を持ち、子どもたちに経済知識の必要性を伝えていくことができるようになることを望んでいる。この度の提案のように、教育系学部で金融教育が盛んになることを期待している。

## 1. はじめに

金融教育元年と定められた平成 17 年以来、金融界は金融広報委員会を筆頭に金融教育推進のための様々な取り組みを行ってきた。それは教育現場のための金融教育のノウハウとして蓄積され、一部では成果を見せ始めている。しかし授業時間確保の難しさや「学校でお金の話や利益追求を教えるべきでない」といった経済に対する否定的な考え方から、金融教育の浸透は遅れている<sup>1</sup>。

経済に関する知識は社会を生きていく上で必要不可欠である<sup>2</sup>。しかし、実際の教育の場では経済を教える立場という意識が低く、教育者の間でこそ金融教育が浸透していないのではないだろうか。そこで私たちは自分の大学が教育大学であることを活かし、また将来経済を教える可能性の高い学生達が今現在経済に対してどのような意識を持っているかを調べることで未来の金融教育の姿を探ることができるのではないかと考え、アンケートを行った。

アンケートの結果をまとめれば、多くの学生は経済への興味を持っているものの、知識が不足していると感じており、将来自分が経済学を含む公民科を教えることに不安を感じている。しかし彼らのニーズに合うような教育がなされてこなかったために、学生の意欲が講義の受講などの行動に結びついていない。現在の教育内容とニーズとの乖離の例を挙げれば、新聞やテレビで報道されている経済の時事問題について理解できるような授業がないこと、教員になってから経済を教えることが不安であるのに、授業では理論ばかりが扱われ、自分が教員になった時にどう教えるかの参考になる授業がないなどがある。

そこで私たちは「教育学部で学ぶ学生のための」新たな授業を提案する。一つは初等教育教員養成課程全科の学生たちに向けた「先生のための金融教育(小学校編)」、もう一つは中等・高等教育教員養成課程社会科の学生たちに向けた「先生のための金融教育(中学校・高校編)」である。

## 2. アンケート結果

経済教育に関する先行研究では、教員の知識・関心不足が経済教育の普及を妨げる一因として挙げられている<sup>3</sup>が、それを裏付ける統計データはまだない。そこで私達はまず身の周りの、数年後には教育現場で活躍するはずの学生たちの意識を知ることが必要だと考え、アンケートを実施した。以下に詳細を述べる。また調査票と結果は本論文の資料に記載した。

### 2. 1. 調査方法

本アンケートの調査目的は、教育学部で学ぶ学生の経済に関する意識を調査し、経済／金融教育普及のための資料とすることである。調査対象は平成 23

年度前期に「社会科教育C」を受講する学生 161 名<sup>4</sup>とし、平成 23 年 7 月 21 日～8 月 5 日の間に実施した。調査対象の選定理由は、この授業が社会科免許取得の必修科目となっているために、対象学生はある程度の経済学講義を受けて経済の知識を得ていると予想されたからである。調査方法は、授業時間の関係から集合調査法と配票調査法の二種類を用いた。有効回収数（率）は 108 人（67.1%）、調査不能数（率）は 53 人（32.9%）、有効回収分の性・学年別回収結果は男女比 52：55（無回答 1 名）、学年比が 3 年：4 年＝54：52（無回答 1 名・予備調査 1 名）であった。

## 2. 2. 結果と考察（1）（問 1－11）

問 2 によると、学生の経済への興味関心は「ある」が 17.6%、「少しはある」が 50.9%で、約 7 割の学生がある程度以上の興味関心を持っていると答えた。しかし実際の経済的知識の程度について尋ねてみると、問 7 によれば「やや不十分」が 49.1%、「不十分」が 26.9%で、7 割強の学生が自分の知識不足を感じている。また問 9 によれば、経済を含む公民科を教えることへの不安は「ある」が 25.9%、「少しある」が 42.6%で、同じく 7 割近い学生が経済を含む公民科を教えることに不安を感じている。問 4 の経済に関する新聞記事については「よく読む」が 10.2%、「ときどき読む」が 44.4%、「あまり読まない」が 39.8%、「読まない」が 5.6%であった。この結果から、多くの学生は経済学に興味を持っているものの、自分の知識量や将来に不安を感じているとわかる。

ところが問 3 の経済学講義の受講コマ数をみると「2 コマ」が 23.1%、「1 コマ」が 63.0%で、8 割強の学生が 1～2 コマの経済学講義しか受講していない。これは愛知教育大学の社会科免許取得の必修科目が「経済学概論」のみであることが原因の一つと考えられる。しかし、選択式ではあるが、愛知教育大学では他に 13 コマ<sup>5</sup>の経済学講義が開講されている。

学生の興味が実際の講義の受講に結びつかない理由は問 10 にみられる。経済学講義の印象について 23.2%の学生が「面白かった」「少し面白かった」と答え、48.2%の学生が「面白くなかった」「あまり面白くなかった」と答えた。否定的な理由には『教科書を読んでいるだけ／理論ばかり／具体的でない』『身近でない』『新鮮味がない』などがあつた。肯定的な理由には『わかりやすかった』『ニュースがわかりやすくなった』『身近な経済の疑問が解決できた』など、自身の理解度や知識を判断基準とした意見が多くみられた。

ここで問 8 をみれば、学生の多くは自らに必要な経済的知識を「日常のニュースが理解できる能力」と答えている。また問 11 のどのような授業であれば受けたいかという記述式質問においても「身近なテーマのもの」「具体的なわかりやすいもの」「子どもに教える力が身につくもの」といった答えが多数

を占めていた。これらのことから、少なくとも愛知教育大学の経済学講義が彼らのニーズと乖離していることがわかる<sup>6</sup>。そこでこの問題を解決するためには、学生にとって身近な問題を取り入れた授業が必要であると私達は考えた。

身近なテーマを調べるためには経済の時事問題を例にとった。また『興味関心の程度』と『学校教育において扱うべきか』という二つの観点から意識調査を行った。問5によると、興味関心の点で上位を占めたものは上から「消費税増税」「就職氷河期と失業率」「教育の機会費用」「物価と景気」「非正規労働者問題」など、教員を目指す、目指さないに関わらず、就職を控えた学生自身に身近な問題として意識された問題と考えられる。一方で学生が学校教育で扱うべきと考えるのは、上位から「物価と景気」「消費税増税」「少子化と労働力不足」「食料自給率と国際分業」「非正規労働者問題」であった。これらから学校教育、すなわち子どもたちにとって身近であると学生が判断する内容は、社会の一員として生活を行う上で必要なもの、つまり景気や社会構造の変化、食糧問題についての知識であることがわかる。

### 2. 3. 結果と考察（2）（問12－14）

また、本論文の趣旨との関わりは薄いですが、私達が個人的に興味を抱いていた農業についても調査した。食料自給率を上げるべきかという問いについては「賛成」が70.4%、「反対」が2.8%、「どちらともいえない」が25.0%であった。賛成理由は『もしもの（輸入が止まった）時のため』『国産が安心』など、食糧事情が外国情勢に左右されることや安全性への強い不安感が目立った。反対理由には『（比較優位論に基づいて）日本は工業に特化すべき』などがあつた。どちらともいえないと答えた理由には、外国情勢の変化を気にしつつも、山間部の多い地理的特徴を考えると自給には限界があると考えられるものなどがあつた。

農産物貿易を自由化すべきかという問いについては「賛成」が16.7%、「反対」が35.2%、「どちらともいえない」が43.5%であった。賛成理由は『消費者として安い商品が手に入るのはうれしい』『国内農業の刺激になる』『国際化・国際協力が進む中で流れに取り残されてはいけない』などの意見があつた。反対理由としては『農業従事者の生活が困窮する』『日本の農産物を保護すべき』『国産の方が安心』など、農家を保護しなければならないという感情や外国産農産物への強い不安がみられた。どちらともいえないと答えた学生の多くは、賛成意見と反対意見の双方を考慮した上で賛否を決めかねていた。

TPPに参加すべきかという問いについては「どちらともいえない」が56.5%で過半数を越え、「賛成」「反対」は同率の18.5%であった。この問いに関しては「TPPとは何か？」という質問が多く出たことから、TPPの認知度そのものが低いことがわかる。賛成理由には日本経済低迷への不安から、

EUのような国際協力体制の必要性を感じているものが多かった。反対理由には同じく日本の経済競争力低下への不安から『アジア勢に負ける』『日本経済が衰退する』などが見られた。

### 3. 新しい授業の提案

2章のアンケート結果を踏まえて、私達は教育学部で学ぶ学生のために、「実学としての経済学」<sup>7</sup>に立ち返った実用的で新しい形の授業を提案する。

#### 3. 1. 「先生のための金融教育（小学校編）」

小学校では教室担任制がとられており、すべての小学校教員は社会科を教える機会を持つ。しかし愛知教育大学初等教育教員養成課程の定員 392 人中、社会科専攻の学生は 60 人であり<sup>8</sup>、社会系科目は基礎科目としてカリキュラムに組み込まれているものの、専攻外の学生の多くは経済学になじみがない。そのため彼らのための経済学授業を考える際には、まず学生自らが興味を持てるような授業であることが必要であり<sup>9</sup>、難しい理論よりも子どもに興味を抱かせやすい授業の実践方法を学ぶべきであると考えられる。初等教育の学生に向けた授業は、身近で基礎的な内容を中心にし、小学生にとってわかりやすく親しみやすい授業方法を紹介するような内容にするべきである。授業名は仮に「先生のための金融教育（小学校編）」とする。

この「先生のための金融教育（小学校編）」では、講義で経済の基礎を学ぶだけでなく、小学生と一緒に読める経済をテーマにした絵本を紹介することや、授業をする際にすぐに応用できるような、体験型授業などの紹介を行うとよい。例えば絵本であればこどもくらぶ著・鈴木出版の『お金について考える』シリーズや講談社の『ボクたちの値段』他、様々な出版社がわかりやすい金融教育の絵本を出版していることを紹介したい（参考文献参照）。また一般に教育学部の学生は経済社会を経験せずに教員になる。そこで例えば商学部のように、15時間の授業の中で、学園祭や大学の中の商業施設で販売することを目的に商品開発を行うなど、体験授業を通じて商品の企画や流通・販売を経験し、市場経済のシステムや会社で行われているやりとりを知ることにも有意義であると考えられる。実体験は教師として生徒に伝達する知識に深みを持たせるものとなる。

#### 3. 2. 「先生のための金融教育（中学校・高校編）」

中学校・高校で社会科を教えるのは、主に初等／中等教員養成課程社会科専攻で学ぶ学生である。愛知教育大学において、社会科免許を取得するためには「経済学概論」などの経済学講義が必修科目とされている。しかし今回私達が実施したアンケートによると、いずれも学生の興味に即した授業でないという

ことが明らかになった。問8、11の集計結果に基づく彼らのニーズとは、中学校・高校で身に付けた基礎知識を生かして身近な経済問題を理解したい、子どもたちに説明できる力を養いたいというものであった。

そこで中等教育の学生向けには、新聞などで扱われている経済時事問題について自ら考察し、実際にそれらを「子どもたちにとってわかりやすく」授業に取り入れる方法を構想する授業を行いたい。扱う時事問題については彼らの自身の興味関心と学校教育で教えるべきかの相関関係から、「物価と景気」「消費税増税」「非正規労働者問題」などを扱うと良いだろう。また貿易ゲームや株式ゲームなどの体験型授業を実施することで経済をより身近に感じられるだろう<sup>10</sup>。

また、この授業では、東京証券取引所、経済教育ネットワークが主催する「先生のための夏休み経済教室」などの出張授業や金融教育フェスティバルの「教員向けセミナー」への出席、身近な企業の見学レポートなどを単位に認定することも考えたい。実際に私たちが「先生のための夏休み経済教室」に参加してみて感じたことであるが、教育現場で社会科を教えている先生方に交じって経済の講義を聞いたり、質問したり、意見を交換したことは経済に対する理解を深め、とても貴重な経験であった。そこで、例えば1日の出張授業への出席を2時間分の出席と同じ扱いにし、2日間に渡って出席した場合には4時間分の授業への出席を免除するなど、講義とともにセミナーなどの場を活用するという工夫が考えられる。中等・高等教育の学生に向けたこの授業の名前は「先生のための金融教育（中学校・高校）」とする。

#### 4. 最後に

この度は、教育系学部で金融経済教育が盛んになることへの期待を込めて、教員養成課程で学ぶ学生のための授業を提案した。私達は、自身を含めた未来の学校教育を担う学生たちが金融経済教育によりいっそう興味を持ち、将来先生となった時に、子どもたちに金融経済知識の必要性や扱い方を伝えていくことができるようになることを望んでいる。教職を志す学生が金融や経済について関心を持って学ぶようになれば、金融教育は自然な形で浸透し、抵抗なく受け入れられることだろう。

長引く不況や度重なる金融危機は、私達の身近な生活にも影響を及ぼしており、学生の経済への興味・関心は高まっている。それを意欲の向上に結び付け、身近な問題を解決する一つ的手段として金融経済知識の必要性を伝え、金融経済教育を浸透させるには大学の協力が必要である。そして現在、教員養成課程の改革が検討されており、教育界はこれからの教育の進むべき道を模索している。学生と大学が手を携えて、新たな教育の形を見出せることを願っている。

## 【注】

1. 水野英雄「少子化時代の教員需要と教員育成の課題」愛知教育大学出版会、2010年
2. この提案では、広義の経済教育の中で「金融教育」をテーマとしている。その理由は、生きていく上でお金に関わる問題に直面することは多く、昨今では金融に関する知識の欠如から多重債務や自己破産等の問題に陥る者が増えており、経済教育の中でも金融に関する知識の教育が特に重要であると考えたからである。ただし、経済教育自体が必ずしも十分に行われていないという現状認識から、広義の経済教育に関する内容にも言及している。
3. 前掲書
4. 予備調査対象（1年男子国際文化コース所属、1名）を含む。
5. 社会情報システム論、国際経済学Ⅰ、国際経済学Ⅱ、経済政策論Ⅰ、経済政策論Ⅱ、応用経済学Ⅰ、国際金融論Ⅰ、国際金融論Ⅱ、金融論、環境経済学、国際金融論実習Ⅰ、国際金融論実習Ⅱ、公民科教育CⅠ（※平成23年度後期現在）
6. 経済教育における体験型学習については、愛知教育大学の一部の授業では積極的に行われている。また前掲書によれば、それに対する生徒・学生の反応は良い。しかしながら、問3にみられるようにほとんどの学生はそれらの授業を受講しておらず、その存在すら知らないと予想される。また他の多くの大学にも普及しておらず、結果として経済理論中心の授業となっている。これを解決するためにはシラバスなどを活用して学生への周知を促す、他大学との連携を積極的に図るなどの方策が必要である。
7. 前掲書
8. 愛知教育大学 平成24年度 入学者選抜要綱  
[http://www.aichi-edu.ac.jp/exam/files/senbatu2\\_110721.pdf](http://www.aichi-edu.ac.jp/exam/files/senbatu2_110721.pdf)
9. 水野英雄「教員養成における経済教育の現状と課題」『日本教育大学協会研究年報第29集』2011年
10. ただし、ゲーム等による体験型学習はあくまでゲームであり、実際の学生自身の利害に関わることではないことから、身近な問題としてはとらえにくいと考える場合もある。そこで、例えば希望者を募り、投資しやすいミニ株による株式投資を実際に行うことで学生にとって現実の問題となり、新聞の経済欄を読むようになることや自己責任感の芽生えが期待できる。



## 【参考文献・論文・資料】

- [1 a] 愛知教育大学「平成 24 年度 入学者選抜要綱」  
[http://www.aichi-edu.ac.jp/exam/files/senbatu2\\_110721.pdf](http://www.aichi-edu.ac.jp/exam/files/senbatu2_110721.pdf)
- [1 b] 愛知教育大学「取得できる免許資格（PDF）」  
<http://www.aichi-edu.ac.jp/edu/gakubu/license.html>  
[http://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/07\\_AUE\\_guide2012.pdf](http://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/07_AUE_guide2012.pdf)
- [2] 石村衛『「お金」ってなんだろう？』2009年、PHP 研究所
- [3] 京都大学高等教育研究開発推進センター MOST  
<https://online-tl.org/portal>
- [4] 金融教育総合研究所 マネーじゅく  
<http://leader.moneyjuku.jp/>
- [5 a] 金融広報中央委員会『子どもたちに生きていく力をつける、それが金融教育です。』パンフレット
- [5 b] 金融広報中央委員会 知るぽると  
<http://www.shiruporuto.jp/index.html>
- [6] 金融広報中央委員会・東京都金融広報委員会主催『金融教育フェスティバル』パンフレット
- [7] 経済教育ネットワーク・東京証券取引所主催『先生のための「夏休み経済教室」 in 名古屋—授業に役立つ経済学—』パンフレット
- [8] こどもくらぶ『「お金について考える」シリーズ』2001年～2002年、鈴木出版
- [9] 坂本綾子著、荻原博子編集『ボクたちの値段』2007年、講談社
- [10] ジョン・ウィットコム著、吉岡晶子訳『子どものための「お金」のレッスン』2001年、講談社
- [11 a] 水野英雄『経済学教育におけるアクティブラーニングの活用』  
<https://online-tl.org/keep25/toolkit/html/snapshot.php?id=10294484356693>
- [11 b] 水野英雄『少子化時代の教員需要と教員育成の課題』2010年、愛知教育大学出版会
- [11 c] 水野英雄「教員養成における経済教育の現状と課題」『日本教育大学協会研究年報第29集』2011年
- [12] みずほフィナンシャルグループ > CSR > 金融教育  
<http://www.mizuho-fg.co.jp/csr/education/index.html>
- [13] 横田濱夫『12歳までに身につけたいお金の基礎教育』2004年、講談社文庫

# 経済に関するアンケート

授業の一環として、教育学部で学ぶ学生へ意識調査を行っています。

結果は学会発表や論文作成に反映させていただきます。

皆さんの率直な意見をお聞かせ下さい。ご協力お願いいたします。

※

★印の問いを優先して答えてください。

選択肢には○印をつけて下さい。

自由記述欄につきましてはご自由にお書き下さい。

学年 ( ) 年生

性別 ( 男 ・ 女 )

所属 ( ) 課程 ( )

★ 1. 今、教員を目指していますか。 (はい いいえ)

★ 2. 経済に興味はありますか。

(ある ・ 少しはある ・ どちらともいえない ・ あまりない ・ ない)

★ 3. これまでの経済学の講義の受講コマ数 ( ) コマ

(例、経済学概論と金融論→2コマ : 1講義を1コマとして数える。現在受講中の講義も含む。)

★ 4. 経済に関する新聞記事 (インターネット版や yahoo ニュースなども含む)

を読みますか。

(よく読む ・ ときどき読む ・ あまり読まない ・ 読まない)

★ 5. 以下の表中の経済問題について (1) 興味関心の程度 (2) 学校教育において扱うべきかという二つの観点から、あなたの考えに近い選択肢を選んでください。

(1) 興味関心 (※数字で記入)

(興味がある ・ 少し興味がある ・ どちらともいえない ・ あまり興味がない ・ 興味がない)

5 4 3 2 1

(2) 学校教育において扱うべき内容

(扱うべき ・ 少しは扱うべき ・ どちらともいえない ・ あまり扱うべきでない ・ 扱うべきでない)

5 4 3 2 1

	(1) 興味関心	(2) 学校教育		(1) 興味関心	(2) 学校教育
財 政 赤 字			消 費 税 増 税		
ゼ ロ 金 利 政 策 と 貯 蓄			物 価 と 景 気		
貿 易 収 支 ( 貿 易 摩 擦 )			円 高 ( 為 替 レ ー ト )		
学 歴 と 収 入 ( 機 会 費 用 )			教 育 の 費 用 負 担		
就 職 氷 河 期 と 失 業 率			若 年 失 業		
非 正 規 労 働 者 問 題			少 子 化 と 労 働 力 不 足		
企 業 の 吸 収 ・ 合 併 ( M & A )			起 業 ・ ベ ン チ ャ ー 企 業		
農 業 保 護 と 補 助 金			農 産 物 貿 易 の 自 由 化		
農 産 物 の 安 全 規 制 ( 放 射 能 や 農 薬 な ど )			風 評 被 害		

食糧自給率と国際分業			貿易と地産地消		
T P P			エコカー減税と公害		
工場の海外移転 (産業空洞化)			外国人労働者		
フェアトレード			発展途上国の開発		
循環型社会の経済性			その他( )		

7. あなたの経済的知識はどの程度だと思いますか。

(十分 ・ やや十分 ・ どちらともいえない ・ やや不十分 ・ 不十分)

8. あなたにとって必要な経済的知識とは、どのようなものですか。

(※9は教員志望の方のみお答えください)

★9. 将来公民科(政治・経済・倫理)を教えるにあたって、不安はありますか。

(ある ・ 少しある ・ どちらともいえない ・ あまりない ・ ない)

★10. 今まで受けた経済学の講義についてどう思いますか。

(面白かった・少し面白かった・どちらともいえない・あまり面白くなかった・面白くなかった)

また、なぜそのように思いましたか。

★ 1 1. どのような経済学の講義であれば受けたいと思いますか。

1 2. 食料自給率をあげるべきだと思いますか。

(賛成 ・ 反対 ・ どちらともいえない)

またそう考える理由について自由に書いてください。

1 3. 農産物貿易の自由化についてどう思いますか。

(賛成 ・ 反対 ・ どちらともいえない)

またそう考える理由について自由に書いてください。

1 4. TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) に参加すべきだと思いますか。

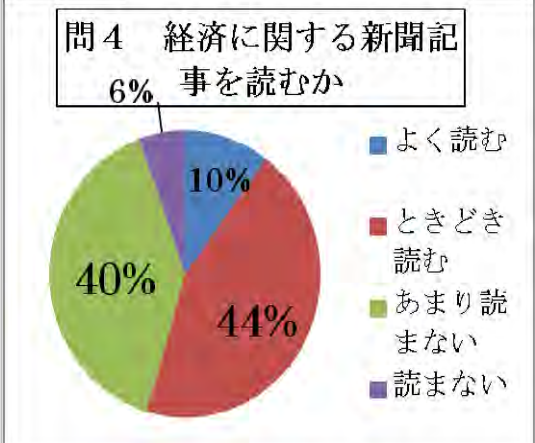
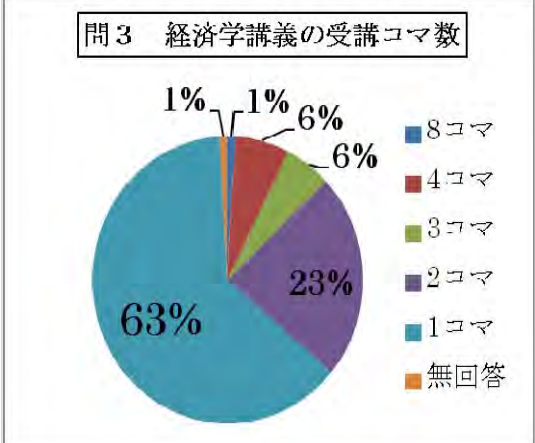
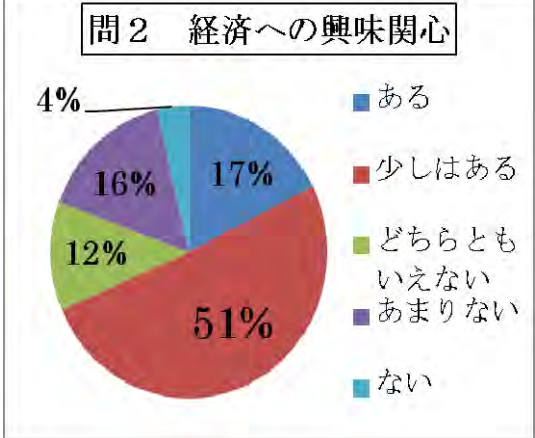
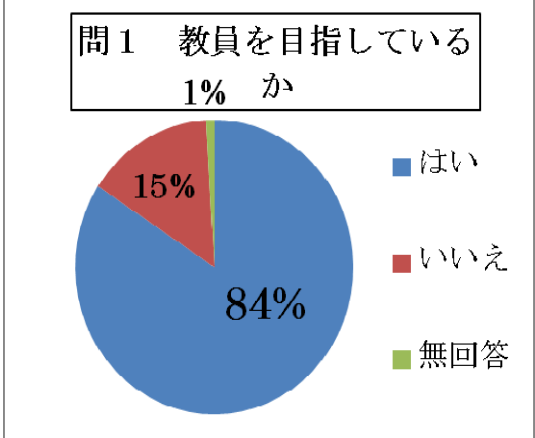
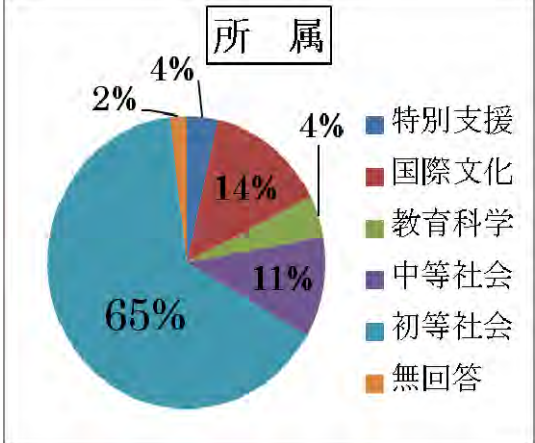
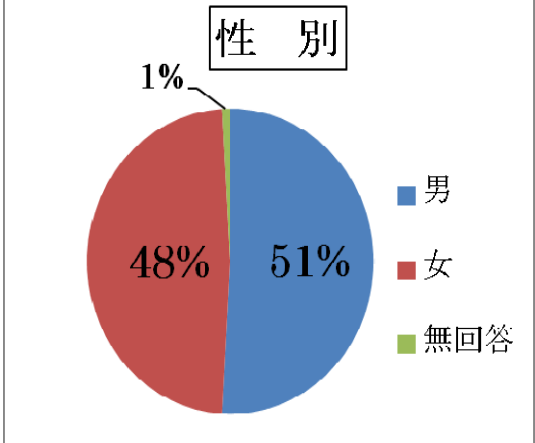
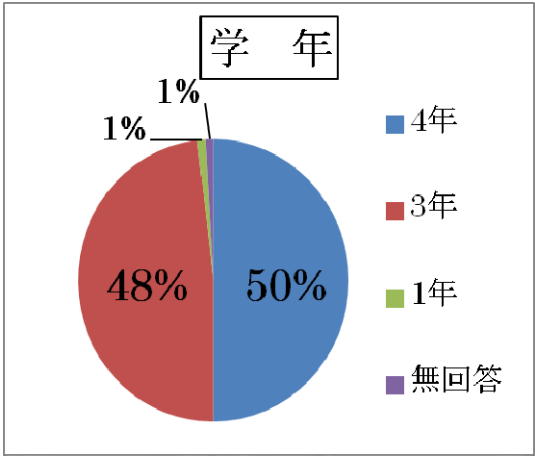
(賛成 ・ 反対 ・ どちらともいえない)

またそう考える理由について自由に書いてください。

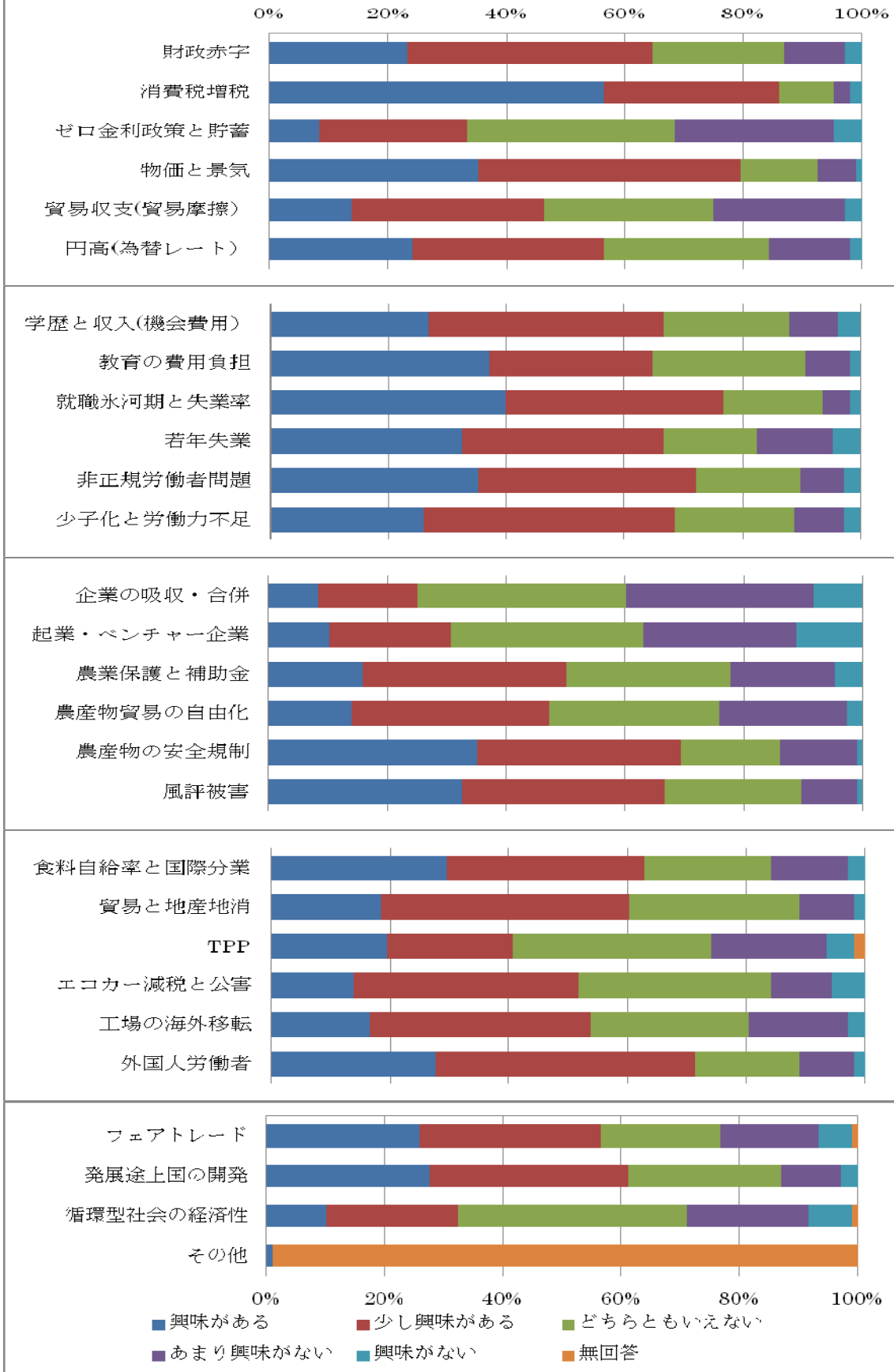
※ご協力どうもありがとうございました。

【資料2 調査結果 グラフ】

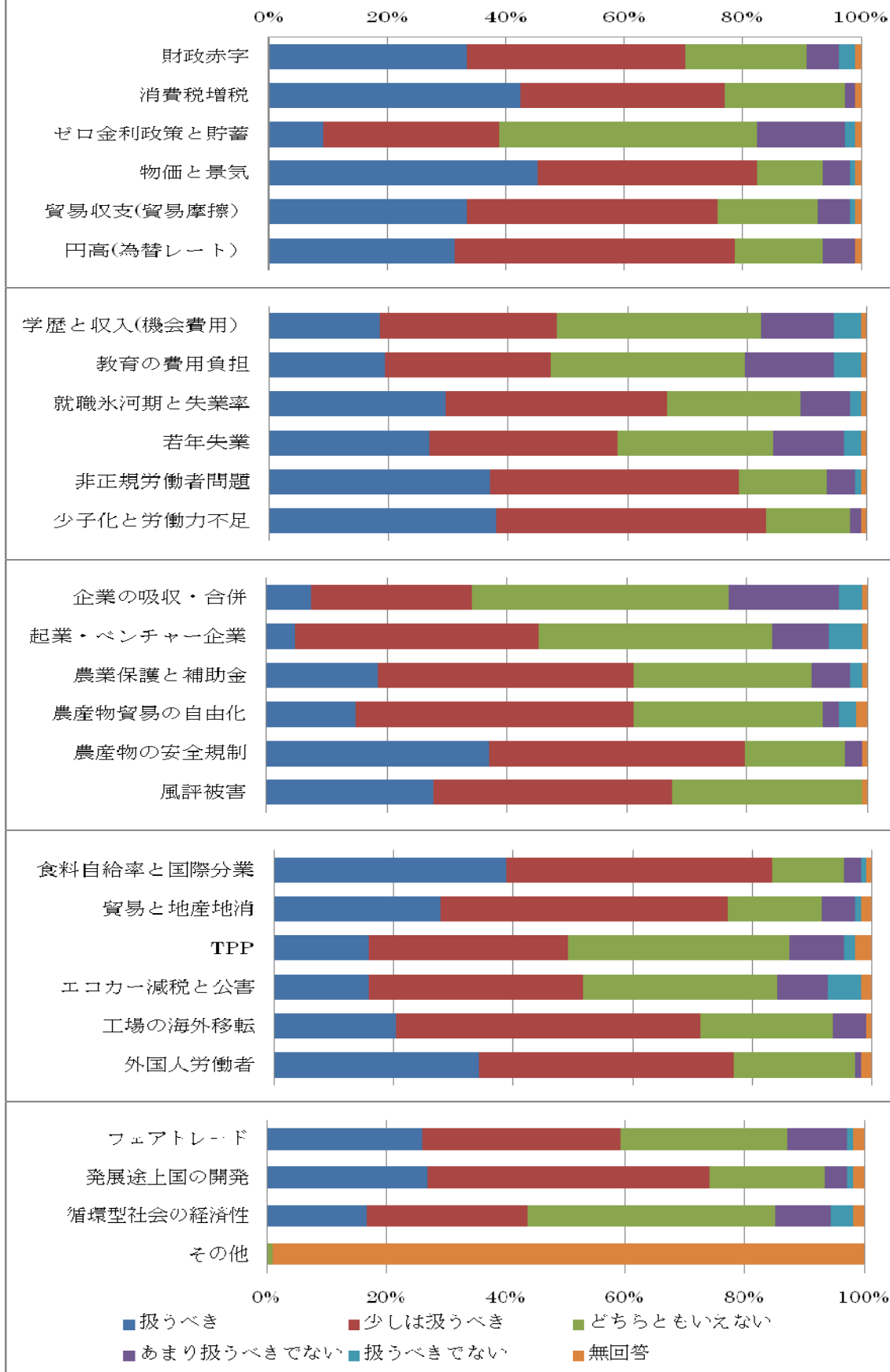
**経済に関するアンケート**  
**調査対象：**  
 平成23年度前期において  
 「社会科教育C」を受講する学生  
**標本数：**161名（予備調査1名含む）  
**調査時期：**  
 平成23年7月21日～8月5日  
**有効回収数（率）：**108人（67.1%）  
**調査不能数（率）：**53人（32.9%）



## 問5 (1) 経済問題への興味関心

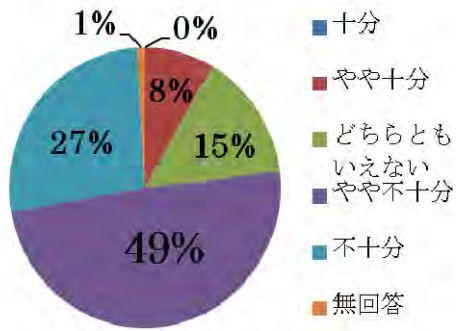


## 問5 (2) 学校教育で扱うべきか

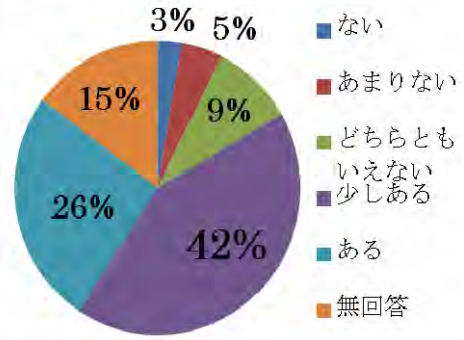




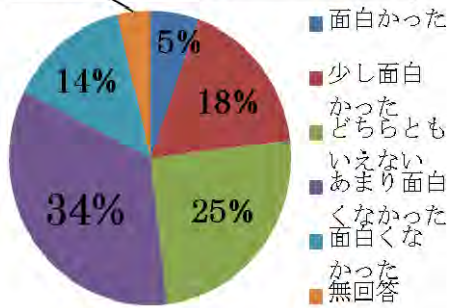
問7 経済的知識



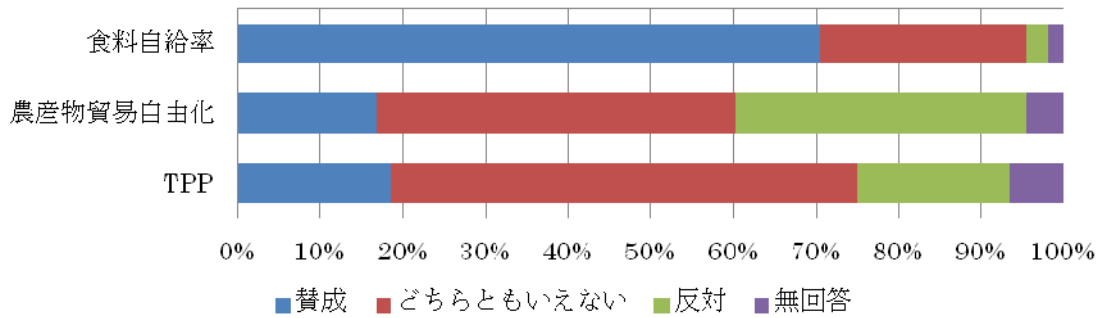
問9 公民科を教える不安



問10 履修した経済学講義の感想



問12~14



## 問8 「あなたにとって必要な経済的知識とは」

- ・ ニュースや新聞記事を面白くみられる力
- ・ ニュースを理解できる 8
- ・ 新聞記事を理解するための最低限の知識
- ・ 公務員試験対策
- ・ 試験で点を取るためのもの。それ以外はいずれ身につく
- ・ 一般常識や採用試験の問題などに出てくることのある程度わかるレベル
- ・ 自分の生活に最低限必要なもの 6
- ・ 生活に密着したもの 5
- ・ 時事を理解し、それに対して自分の考えが持てるような知識 2
- ・ 実用的なもの
- ・ 消費者としての知識、効率の良い買い物の仕方
- ・ 消費税や税金など、実際の生活に関係していること
- ・ ものの値段など、自分に身近なことを適切に判断できる知識
- ・ 今どうしたら得かわかる
- ・ どこのスーパーが安いか
- ・ 70%OFFなどがすぐに計算できる知識
- ・ 賢い消費者であるためのもの
- ・ 物価変動 2
- ・ 需要と供給
- ・ 生きていくために必要な知識 8
- ・ 消費税、貯蓄 2
- ・ 資産運用、貯蓄
- ・ 年金 2
- ・ 労災
- ・ 保険 2
- ・ 労働 2
- ・ 収入 2
- ・ お金を稼ぐための方法
- ・ どれだけお金を使わずに幸せに暮らしていけるか考えられる知識
- ・ 税金 4
- ・ 税金の制度を利用して上手く生活すること
- ・ 世の中の仕組みを知るための一つの視点 4
- ・ 貿易・貿易収支
- ・ ギリシアの経済不安の理解のための知識

- ・ 現代の日本社会、国際社会を生きるうえで欠かすことのできない知識
- ・ 円安、円高 7
- ・ 為替レート 3
- ・ 財政、景気動向 5
- ・ 金融政策、財政政策 3
- ・ 日本がどのような経済政策を進めていくべきか考えるためのもの 2
- ・ 現在の経済、世界について考えたりできる
- ・ マスコミに惑わされずに、自力で判断する力 2
- ・ 日本の経済状況が分かる
- ・ 生活に必要な
- ・ 人が生きていくために必要なお金に関する知識
- ・ 世の中のお金の流れを知っておくこと 4
- ・ 財政 市場 資本主義 株 産業 など
- ・ 株式市場 2
- ・ 金融の仕組み
- ・ 株や円相場の状況を自分なりに理解できる知識
- ・ 経済の用語について、社会とどのように関わりがあるか述べることができる知識
- ・ 経済のしくみと、実際どのようなことがおこると、経済がどう変化するのかを知ること
- ・ 基本的な経済の流れを説明できる力 2
- ・ 教師として人に説明できる
- ・ 児童にとって身近に感じやすく例えられる知識
- ・ 人と話し合える
- ・ 政治の話題が理解できる
- ・ 社会で知っておかなければならないこと 2
- ・ 常識的なこと
- ・ 大人になって恥をかかないため
- ・ M&A
- ・ 社会貢献のために必要なもの
- ・ 政治的に中立であること
- ・ 特別知っている必要はない
- ・ 自分がこれから就職するにあたり、経済状況が雇用にどれくらい影響を与えるか
- ・ わからない 2

問 10 「今まで受けた経済学の講義についてどう思うか」

<p><b>5 面白い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで知らなかったことを知れた</li> <li>・簡単な内容で分かりやすい</li> <li>・先生の説明が分かりやすい</li> <li>・まだ概論ではあるが、具体的な例を出して頂けたのがわかりやすかった</li> <li>・教科書が分かりやすい</li> <li>・基礎を学びたかったから</li> <li>・面白かったが、理解に時間がかかり難しい</li> </ul>	<p><b>1 面白くなかった</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教授の話を見なくても教科書を読めばわかるから 4</li> <li>・先生が教科書を読むだけでやる気がない</li> <li>・知識の一方的な教授に留まったから</li> <li>・つまらない 3</li> <li>・段階を追った授業でなく、それぞれが単独の講義だったから。基礎から発展と、順に展開されれば分かりやすかったらうし、面白いと感じたと思う</li> <li>・M先生以外の教員に魅力を感じなかった</li> <li>・大学の授業が出席をとらない授業であったから</li> <li>・講義を聞いていない</li> <li>・言葉が難しい</li> <li>・わからない</li> <li>・興味がない</li> <li>・覚えていない</li> </ul>
<p><b>4 少し面白かった</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすかった 2</li> <li>・具体的だった 2</li> <li>・ニュースがわかりやすくなった</li> <li>・需要供給は身近でおもしろい。</li> <li>・なぜ赤字になっても廃業しないか（損益分岐点）など、身近な経済の疑問が解決できた</li> <li>・社会の見方が変わった</li> <li>・少し経済の仕組みがわかったから</li> <li>・マクロ経済が理解できた</li> <li>・経済の基礎的事項を教えてもらえたから</li> </ul>	<p><b>2 あまり面白くなかった</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を読んでいるだけで理解につながらない、面白くない 1 3</li> <li>・先生の一方的な講義だった 4</li> <li>・黒板と授業する先生だから</li> <li>・理論ばかりに偏っている</li> <li>・身近でない</li> <li>・「今」の経済について少しも触れないから</li> <li>・身近な話題からかけ離れているから</li> <li>・具体性がなく、イメージできないから 3</li> <li>・具体的内容や今後経済政策をどう進</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある内容を勉強できたから。</li> <li>しかし、時事問題を取り扱うことが少なかった</li> <li>・おもしろい授業、むずかしい授業、自分でとても考えさせられる授業、色々あったので</li> <li>・わかりやすい先生だったから</li> <li>・内容はすごくわかりやすかったが、テキストを読めばわかることがほとんどだった</li> <li>・今まで知らなかったことも学べたから</li> <li>・新しい発見があって、楽しかったから。</li> <li>・難しい、計算が多いというイメージがあったが、しくみがわかると面白かった</li> <li>・中学や高校で単語だけで覚えた経済現象が、グラフなどで論理的に説明されたからわかりやすかった</li> <li>・テキスト自体が面白かった</li> <li>・表面的に理解していたものが明確になった</li> </ul>	<p>めていくのかといった考察の部分が少なかった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・需要供給曲線ばかり書いていて実感性がなかった</li> <li>・ただの数字の動きに感じられた</li> <li>・高校の内容とほとんど同じ</li> <li>・計算ばかりだったというイメージ 2</li> <li>・ただ言葉の意味などを暗記すればよいだけなのかなと感じたから</li> <li>・先生が必要と供給を間違えるレベルだったから</li> <li>・先生の話聞くよりも、自分でテキストを読んだ方がより理解出来た</li> <li>・基礎的知識が乏しいまま受講したこともあり、授業にあまりついていけなかった</li> <li>・わからないものが多い 4</li> <li>・話についていけなくなった</li> <li>・興味があまりないから 3</li> <li>・興味がないから</li> <li>・嫌いだから</li> <li>・マクロ経済だけだった。ミクロも聞きたかった</li> </ul>
<p><b>3 どちらともいえない</b></p>	<p><b>9 無回答</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近でない 2</li> <li>・本を読むだけの授業 4</li> <li>・教授はつまらないが教科書はおもしろい</li> <li>・内容は好きだけれど、教科書を読むだけの授業はつまらなかったから</li> <li>・意欲的に受講したのに面白くなかった</li> <li>・面白いものと興味が湧かないものがあった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し難易度をあげるべき</li> <li>・分かりやすい説明がある授業では興味を持って取り組むことができたが、大筋をなぞるような授業はあまり面白くないと思えなかった</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容はわかりやすいが面白くない 2</li> <li>・内容は面白いが、難しい</li> <li>・難しい</li> <li>・自分で内容を学ぶのがおもしろい</li> <li>・「なるほど」と思うが、進んでやろうとは思わない</li> <li>・基礎的な内容が主だから</li> <li>・新鮮味がない</li> <li>・自分の生活と深くかかわっている部分とそうでない部分とで理解に差があるように感じた</li> <li>・先生の説明で途中までわかったが、内容が複雑化して理解できなくなった</li> <li>・専門用語（言葉の定義）を良く知らないと理解できない 2</li> <li>・具体例があると面白いが、抽象的なものは全く面白くない</li> <li>・データやグラフを読む活動が少ないから</li> <li>・グラフの動きを見ても自分の生活に関わることでないから、具体的に連想できない</li> <li>・受講したことがない</li> <li>・覚えていない 2</li> </ul>	
---	--

### 問 1 1 「どのような経済学の講義であれば受けたいか」

- ・ 具体的でわかりやすいもの 1 1
- ・ 実践的なもの
- ・ 事例を多く紹介するもの
- ・ より実生活に役立つもの 3
- ・ 自分の消費生活に生かせるもの

- ・ 自分たちの生活に身近な問題を扱うような授業 2
- ・ 経済学の用語を並べるだけでなく、例えばものの流れなどをもっと簡潔にもっと身近なもので説明してくれるもの
- ・ 身近なテーマのもの、やりかた 6
- ・ 生活に密着しているもの 14
- ・ 教科書より踏み込み、現代社会に関連するもの 5
- ・ 仕組みなどではなく、現実世界でどう作用しているのかがわかるもの
- ・ 実感が持てる授業
- ・ 日本の経済政策について考えていけるもの
- ・ これがわかれば現代社会がわかるというもの 2
- ・ 実際の日本の問題にからめながら学べる講義
- ・ 現代社会の経済問題の解決法を考えていく授業
- ・ ニュース（時事）を取り上げて解説 6
- ・ 時代に即したもの
- ・ 講義形式でないもの
- ・ ただ教科書を理解するだけでなく、その上で実際に活動を行ってみるもの
- ・ 体験授業 3
- ・ パワーポイントを使うなど、実践的な授業 2
- ・ 詳しく極めたいとは思わないので、ざっくりと幅広く学べるような授業
- ・ ストーリー性があるもの
- ・ ロールプレイング
- ・ 大学生として自分で調べ学ぶような授業
- ・ 楽しいもの 4
- ・ ユーモアのある授業
- ・ とにかく面白いもの、経済が面白いということをはっきりとわからせてくれるもの
- ・ 興味の持てる授業
- ・ 興味がひくもの、自分自身の参加しやすいもの
- ・ 一見生活に関係なさそうでも実は関係していた！というようなおどろき、新たな発見のある授業
- ・ 新たな知識を面白く伝えてくれる知識
- ・ 経済のことをあまり知らなくても内容が理解でき、面白いと思える授業。  
計算が多い物はいやだと思う
- ・ 基礎から発展と順に展開される授業 3
- ・ いくつかの分野から満遍なく中高の内容を掘り下げたもの
- ・ 基礎から徹底しているもの

- ・ **子どもに教えるための経済の授業 2**
- ・ 教授がホワイトボードと話をするだけではない授業
- ・ 教授がもっとおもしろければ良い 2
- ・ 教科書以外も使う
- ・ **実際の経済状況との関連、株や景気の動向 4**
- ・ 社会にでて役に立つもの
- ・ 金銭について
- ・ 現在の世界各国の経済状況 3
- ・ 世の中の裏側が分かる
- ・ 普段の消費生活と密接にかかわるもの
- ・ 国際経済
- ・ 世界的貧困
- ・ 世界的経済格差
- ・ 世界経済についてのもの
- ・ お金を稼ぐ方法 2
- ・ どうしたらお金が増えるのか教えてくれる
- ・ 市場について
- ・ 経済の基礎からわかりやすく説明するもの 2
- ・ 誰でもわかるような説明の授業 2
- ・ とっつきにくいので、進むペースを落としてほしい
- ・ 時間をかけて教えてほしい
- ・ 理論だけだと数学っぽくて苦手意識が消えないし難しい
- ・ カネと政治の関係
- ・ 私たちの生活で政治上どのようなカネが動いているのか
- ・ 景気について理解できるようになる知識
- ・ 少人数
- ・ 一からマクロ、ミクロ経済を学びたい
- ・ 収入について
- ・ ベンチャー企業について
- ・ マイケル・サンデル教授を呼ぶ
- ・ 「ほんまでっか TV」を観る
- ・ M先生の授業
- ・ 池上彰さんの行うような授業 3
- ・ 生徒に授業をさせた方が理解度は上がるはず



## 問 1 2 「食糧自給率を上げるべきか」

賛 成	反 対
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ もしもの時のため 6</li> <li>・ 外国に頼っていると困るから</li> <li>・ 他国に食料の生命線をにぎられないように 1 5</li> <li>・ 輸入が止まると生きて行けない、自国で食べる力が必要 1 4</li> <li>・ 他国とのパワーバランスが変わることを考えると、自給できないのは大問題 4</li> <li>・ 他国と戦争した場合に困る</li> <li>・ 実際に食糧危機が起こった際に日本が貿易を行い食糧を獲得することができるかという不安から 3</li> <li>・ 自国だけでも生き延びられる国にならないと外国に下に見られる。これだけ資源に恵まれているのに日本は外国に甘えすぎだ</li> <li>・ 他国に依存しない外交ができるように</li> </ul> <p>輸入に頼り過ぎていると外国に気を使わなければならないから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国など人口が増えているので、日本に輸出する分が減るのではという不安がある</li> <li>・ まわりの国に依存しているようで嫌。自然災害やバイオ燃料需要の増大、畜産の需要の増大が起きる中、もしもの時本当に日本に食べ物が入ってこなくなる</li> <li>・ 国内の経済力が上がると思う</li> </ul> <p>低いよりは高い方がいい 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の自給率が低すぎるため 2</li> <li>・ 輸入にたよりすぎ 6</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較優位の考えから、工業に特化すればいいと思う</li> </ul>
<p>どちらともいえない</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放射能汚染などの問題を考慮すると、どちらともいえない</li> <li>・ 海外になにかあったら自国でやらなくてはいけない。他国のほうが安価なものが大量に入る</li> <li>・ 自給率が低いままでは、輸入できなくなったとき困るが、自給率を上げると、土地も人でも足りず、外国製品との兼ね合いが難しいという問題がありそう</li> <li>・ 他国に日本が追い抜かれたら強みになるものがないが、自給率をあげると技術面の低下</li> <li>・ 国土面積や産業構造からして、食料自給率を上げるよりは第二次・第三次産業の技術発展を追求すべき</li> <li>・ 国の範囲を考えると出来る範囲であればいい</li> <li>・ 現在の水準（約40%）で問題ない 3</li> <li>・ 輸入でまかなえているので問題ない</li> <li>・ 自国ものを食べたほうがいいが、現在、不自由していない</li> <li>・ 他国との友好関係を維持できるなら、リカードの比較優位説の立場をとって貿易をすれば良い</li> <li>・ 国産は安全性が心配は少ないが、貿易が減少する</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国産のほうが安心 6</li> <li>・ 地産地消のため</li> <li>・ 輸送コストを下げる</li> <li>・ 農業をすべき 3</li> <li>・ 日本農業の維持 3</li> <li>・ 家が兼業農家なので、自給率が上がれば良いと思う</li> <li>・ 食、農業こそ国の根幹だと思うから</li> <li>・ 世界情勢の変化に対応できるようにするため</li> <li>・ 円高などの海外の影響を受けすぎだから</li> <li>・ 実際問題として輸入を制限したりするのは難しそうだが、もしもの時を考えると大打撃を受けてしまうおそれがあるので、自分たちの必要な分は自分たちで何とかすべきだと思う</li> <li>・ 輸入地域で放射能が出たら国民が怒る</li> <li>・ すべてを頼るべきでない</li> <li>・ 日本の自給率が低すぎて、作っても売れないから生産していけない</li> <li>・ 一次生産者を守る政策が不足しているのではないかと思うから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自給率は上げた方が良いが、今の政府への期待は薄い</li> <li>・ 国内総生産の増加につながるが、輸入量が減って外国からのイメージダウン</li> <li>・ 自給率の前に農家の人の救済が必要</li> <li>・ 農家の負担になる</li> <li>・ 自給率を上げたいと思っても農業をしたいという人がいなければできない。育てるのが難しい食物もあると思うので無理をしてまではすべきでない</li> <li>・ 食糧自給率を上げつつ、土地の問題とも折り合いをつけつつ、他国に依存しすぎないようにすべき</li> <li>・ 海外のものを入れずに自給率を高めるなら賛成できない。今はグローバル化で選択できる時代</li> <li>・ 外国に頼るのは悔しいし、外国の協力が絶えた時を考えると不安</li> <li>・ 比較優位に基づいて自分でできない分輸入で賄う必要があるから</li> <li>・ 真のグローバル社会を目指した後で決めればいい</li> <li>・ 貿易をより進めていけばよい</li> <li>・ 食料自給率の値自体が曖昧だから</li> <li>・ 知識がない 2</li> </ul>
--	---

### 問 1 3 「農産物貿易の自由化についてどう思うか」

賛 成	反 対
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他国と友好関係を保ちながら貿易を行えばいい</li> <li>・ 色々な国の食べ物の行き来が当たり前、自由化すべき</li> <li>・ 世界経済活動の促進のため</li> <li>・ 得意分野での協力は必要</li> <li>・ 農薬の基準など安全面には不安があるが、日本は工業力をあげれば GDP は増え経済が活発になると思う</li> <li>・ 消費者としては商品がより安くなるのでうれしい 2</li> <li>・ 日本のものと外国のものを比べて選 択できるから</li> <li>・ <b>相手国に日本の野菜フィーバーを起 こすくらいの気力が必要</b></li> <li>・ 国産の質をあげるきっかけになるから</li> <li>・ 日本の農業も競争をするようになるから</li> <li>・ 日本からの農産物輸出で農家の利益になる戦略はないのか</li> <li>・ 農業について保守的傾向が強すぎる</li> <li>・ 日本の農業も小作農でなく大きな企業へ発展したり、新たな農業体制の改革をしなければ衰退していくだけ</li> <li>・ 他の産業があまり保護を受けない中農産物だけが保護を受けるのは疑問に思うから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の野菜がひどいことになる</li> <li>・ 国内経済活性化のため</li> <li>・ <b>農業従事者の生活困窮、衰退の可能性 1 4</b></li> <li>・ 農家を守るために、米の自由化だけはやめてほしい</li> <li>・ 外国産業にのみこまれそう</li> <li>・ 外国から安い農産物が入ってきたら食糧自給率が余計下がるし、第一次産業が衰退する</li> <li>・ 外国の安価な食べ物のために、日本独自の食文化が衰退する</li> <li>・ <b>日本の農産物の保護 7</b></li> <li>・ 国産のほうが安心</li> <li>・ 外国の野菜の安全性が疑問</li> <li>・ 中国のものは安いけれど、農薬がたくさん使われているものばかりだと困る</li> <li>・ 安くて質の悪い物が入ってくるのが不安。それによって農家がなくなったら取り返しがつかない</li> <li>・ 自給率を上げたいならやらない方が 良い 2</li> <li>・ 貿易が活性化するのは良いことだが、打撃をこうむるのは日本の農産業者。売れないことで余計に輸入に依存するようになるかもしれない</li> <li>・ 日本のものが売れなくなる</li> <li>・ それぞれの国が自国の中で生活していくため</li> <li>・ 基準などを日本に近い物に設定しなければ日本の経済に悪影響がある</li> <li>・ 農産物が障害と言われるが（確かに</li> </ul>

	<p>コメなどは高関税であるが) 全体的には農産物自体の関税は低いと思うから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関税がないことを不満に思う国もある</li> </ul>
<p>どちらともいえない</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安いものが大量にはいるが、安全面に不安</li> <li>・農作物の安全面が心配 3</li> <li>・過度の農薬を用いた農産物が流通してしまう</li> <li>・消費者が安くものを買えると購買者の利益をどう守るかという問題 2</li> <li>・輸入品の価格は安いですが、農業への打撃も大きい</li> <li>・日本の農業が弱体化する可能性があるが、消費者である自分としては安い物を求めるため 4</li> <li>・日本の農家のメリットになるものがあればいいが今はない 2</li> <li>・今まで日本も自由化を進めてきたが、いまいちどのようなメリットがあったのかわからない</li> <li>・国内の商品が売れなくなり、国内の農家が保護されなくなるから</li> <li>・自由はいいが、地域農業の発展がない</li> <li>・今の日本には対応しきれないが、耐えられなければ日本の先(未来)はない</li> <li>・デメリット、メリット両方あるから 4</li> <li>・色々利害があるから</li> <li>・過去の成長と過ちの両方あるから</li> <li>・全てを外国に頼るべきでない</li> <li>・よくわからない 8</li> <li>・知識がない 2</li> <li>・食糧自給率が心配なので</li> <li>・各省庁によって言い分は違う。消費者である自分にとっては安い農産物が食べられるのがうれしい</li> <li>・日本のものが売れなくなる可能性もある</li> <li>・日本の農産物を世界に広めていくチャンス</li> <li>・いまのままでいい。しかし「国産」を口にしたいので自給率をあげてほしい</li> <li>・国内の農業が衰退しないよう食糧自給率を上げつつ、国民に選択の幅が広がればいい</li> </ul>	

## 問 1 4 「TPPに参加すべきだと思うか」

賛 成	反 対
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他国との連携も必要 2</li> <li>・ 中国、韓国の存在が脅威</li> <li>・ 参加しなければ工業品のシェアが中国、韓国に取られてしまう</li> <li>・ 韓国などに負けてしまうことが心配なので、他国と仲良くしておいた方が 良い</li> <li>・ 工業分野で、明らかに韓国や中国と戦うことが出来なくなっているので、関税を撤廃しない限り日本の GDP は低下すると考えられるため</li> <li>・ EUなどの経済共同体に対抗するためには1国では不十分 3</li> <li>・ EUのように関税がなくなるのはいい</li> <li>・ 日本経済の現状を変えるために必要</li> <li>・ より国際貿易をすすめていくために必要</li> <li>・ 域内での親密化、企業や法整備が必要</li> <li>・ 日本としての自覚</li> <li>・ 日本だけが参加しないのは無理だが農業保護も大切</li> <li>・ 参加はすべきだが、外国の意見に流され続けてはいけないと思う</li> <li>・ モノが安くなるなら良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安い労働力のアジアに勝てるわけがない</li> <li>・ 日本の経済を衰退させる</li> <li>・ 海外からの安い物に押されて日本の企業が育たない</li> <li>・ 日本の産業の保護</li> <li>・ 戦略により、喧嘩や戦争が起こる</li> <li>・ 国内の農産物が衰退するから</li> <li>・ 主要農家（年収 370 万）の人が甚大な被害を受けるから</li> <li>・ 日本の農業死守</li> <li>・ 今の日本では問題が起きたら対処できない</li> <li>・ アメリカが得をするだけだから 2</li> <li>・ 日本は国際政治戦略が苦手なので、参加しても大国のいいなりになってしまうのではないか</li> <li>・ 明らかに日本の農業は打撃を受ける。震災の被災地の農家の事も考えてほしい</li> <li>・ 自給率が下がるから</li> <li>・ 農家を守ることと、世界を広げることのバランスが難しい</li> <li>・ もっと他国との経済格差が縮まってから行うべき</li> </ul>
<p>どちらともいえない</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知らない 8</li> <li>・ あまり興味がない</li> <li>・ 内容がよくわからない 30</li> <li>・ よくわからないが、農家の衰退につながると聞いた</li> </ul>	

- ・情報が少なく判断できない
- ・メリットデメリットがわからない 3
- ・メリットもデメリットもある
- ・輸入価格は安い、農家への打撃も大きい
- ・生産者への打撃を考えるとどちらともいえない
- ・工業面からは賛成だが、利益の追求は必要ないから
- ・日本経済が少しでもよくなるなら賛成。ただ安く買えるにはいいが、その分国内の農家が収入面で苦しむのではとも思う。今まで通りやっていけるなら問題はない
- ・経済の連携、関税の撤廃は2国間では行われているところが多いが、9カ国ともなるとそれぞれの国によって事情がありそうだから
- ・農業のためには反対だが、工業のためには参加してほしい。産業によって立場が違い難しい 3
- ・日本が参加しないとマイナス面が多い。しかし参加しても農作物が売れなくなるというマイナス面がある

# 取得できる免許・資格

## 愛知教育大学で取得できる、教育職員免許(教員免許)

本学で取得できる教員免許および取得資格は下の通りです。「主免」とは、卒業要件単位を修得することで取得できる教育職員免許のことです。また、本学の教員養成課程では「主免:卒業要件」のほか、履修カリキュラムを通して「副免:取得可能免許」が取得できるように配慮されています。

課程・ 選修・専攻・コース・定員	教員免許	幼稚園 教諭	小学校 教諭	中学校教諭											
				国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	家庭	英語	職業指導	保健
教員養成課程	選修 (初等教育)	幼児教育 18名	■	●											
		教育科学 ① 22名	●	■	(●:入学時に決定される希望免許教科で中2種免許を原則とする。)										
		情報 ② 10名	●	■	(●:入学時に決定される希望免許教科で中2種免許を原則とする。)										
		国語 53名	●	■	●										
		社会 ③ 60名	●	■	●										
		数学 51名	●	■	●										
		理科 57名	●	■	●										
		音楽 25名	●	■	●										
		美術 25名	●	■	●										
		保健体育 36名	●	■	●										
	専攻 (中等教育)	教育科学 ① 6名		●	(■:個別学力検査で決定する希望免許教科(1種免許。))										
		情報 ② 10名			(●:「数学」もしくは「技術」の教科(1種免許。))										
		国語・書道 19名		●	■										
		社会 16名		●	■										
		数学 30名		●	■										
		理科 32名		●	■										
		音楽 6名		●	■										
		美術 6名		●	■										
		保健体育 26名		●	■										
		技術 10名		●	■										
特別支援学校教員養成課程 25名		●	■	(●:入学時に決定される希望免許教科で中2種免許を原則とする。)											
看護教諭養成課程 40名				●											
現代学芸課程	国際文化コース ④ 72名			(●:「社会」もしくは「英語」の教科(1種免許。))											
	日本語教育コース ⑤ 20名			(●:「国語」もしくは「英語」の教科(1種免許。))											
	臨床福祉心理コース 20名														
	造形文化コース 30名														
	情報科学コース 40名														
	自然科学コース/宇宙・地質科学専攻 25名														
自然科学コース/分子細胞生命科学専攻 25名															

① 教育科学選修(初等教育教員養成課程)では、主免(小学校教諭1種免許)の他に、中学校教諭2種免許(希望の免許教科および職業指導)を取得することができます。  
教育科学専攻(中等教育教員養成課程)では、主免として中学校教諭1種免許(受験出願時に申請の免許教科)を取得することになります。また中学校教諭1種免許(職業指導)を取得することができます。

② 情報選修(中等教育教員養成課程)では、主免(小学校教諭1種免許)の他に、中学校教諭2種免許(希望の免許教科)を取得することができます。  
情報専攻(中等教育教員養成課程)では、主免として高等学校教諭1種免許(情報)を取得することになります。また、受験出願時に申請の[中学校教諭1種免許(数学)-高等学校教諭1種免許(数学)]もしくは[中学校教諭1種免許(技術)-高等学校教諭1種免許(工業)]の教員免許を取得することができます。

### その他の資格

本学では、教員免許のほかに、人々の生涯学習などを支える資格取得の道が用意されています。所定科目の単位を修得することで、卒業と同時に免許・資格が取得できるものや、受験資格が得られるものがあり、将来への可能性を高めています。

### 社会教育主事

教育委員会の事務局や社会教育施設(公民館・青年の家など)などで、社会教育活動について指導と助言を与える専門職のことです。この資格取得には、自由科目として開設されている所定科目の単位を修得し、1年以上の社会教育主事補の経験が必要とします。助教教員が資格を取得して任用されることも多い職種です。

### 社会福祉主事

行政の福祉事務所で働くケースワーカー、社会福祉施設等の生活指導員など、福祉分野で働く際の社会福祉法で定められた任用資格です。本学では、主に幼児教育選修、家庭選修-専攻、看護教諭養成課程(以上、教員養成課程)、臨床福祉心理コース(現代学芸課程)の学生が、所定科目の単位を修得することで、資格が取得できます。

### 学校図書館司書教諭

小学校・中学校・高等学校などで、教員として勤務しながら、専門職として学校の図書館を運営する職務です(2003年4月以降、12学級以上のすべての学校には本資格取得者の配置が義務づけられました)。この資格は、所定科目の単位を修得することで取得でき、全学生に開かれており、教員免許を取得することが前提です。

